

西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2015年9月16日 Vol.132 発行者:森田正樹 編集:広報部

〒662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4F 秘書課内

TEL:0798-35-3468 FAX:0798-32-8673 Mail:info@nleg.net

マリー・フィトンさん10月来日をキャンセル?

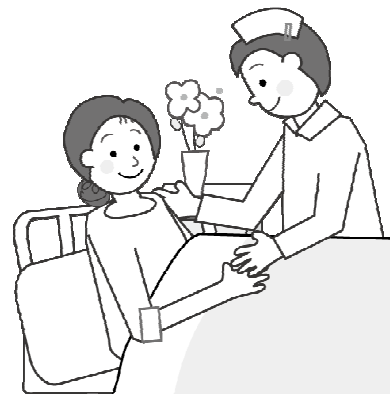
マリー・フィトンさんからの情報をお知らせ致します。

今日(8/24)、マリー・フィトンさんから、マリーさんご自身に健康上の問題が発生したため10月の来日をキャンセルしないといけなくなったとご連絡がありました。

激しい痛みが発生したため、救急で病院に行ったところ、腎臓に大きな石が見つかり全身麻酔で第一回手術を行ったそうです。

これからも定期的にレーザーで石を破砕する処置が必要で、最終予定されているのが10月15日だそうです。

最後に、家族や夫と一緒にいてくれるので大丈夫ですと書いてありました。以上、ご報告まで。会報に間に合うようでしたら、皆さんにお知らせ下さい。
(岡林京子)



事務局の岡林さんが退職



Thank you

本当に急で申し訳ございません。

突然ですが、面白そうだなと思う仕事に、転職することが決まったので退職することになりました。

佐藤さんはじめ、NLeGの皆さんには、本当によくしていただきましたので、本当に心苦しいのですが、新しいことに挑戦しようと決めた次第です。

もう少し時間に余裕があれば良かったのですが、なかなかそうもいかないようです。

まだしばらくはおりますので、引き続きよろしく申し上げます。また詳しい日程等決まりましたらご連絡させていただきます。本当に申し訳ありません・・・。

岡林京子

(岡林さんは、9月で退職されます。岡林さん、ありがとうございました。)

佐藤祥子さんからの連絡

NLeG 幹事各位

みなさま、いろいろと御迷惑かけました。

父、9月3日に逝去し、東京のカトリック三軒茶屋教会で6日通夜、7日葬儀すませました。

西宮には先週木曜(9/10)に帰ってきました。

会報の校正などもできず申し訳ありませんでしたが、池田さん大丈夫なんですよ?

明日は定例会、大谷美術館で10時半からでよかったですか?

議題もちょっと頭がボケているのですが、岡林さんのまさかの退職を受けて、今後の体制など心配です。あまりによくやってくださっていたので・・・

(佐藤祥子)

今年は敗戦後 70 年を迎え、それを意識した展覧会が各地で開催されています。
 三重県立美術館「戦後 70 年記念 20 世紀日本美術再見 1940 年代」(9 月 27 日まで)、
 名古屋市美術館「画家たちと戦争展 彼らはいかにして 生きぬいたのか」(9 月 23 日まで)、
 広島県立美術館「広島・長崎被曝 70 周年 戦争と平和展 芸術家は、いかに戦争と向き合ってきたのか」(9 月 13 日まで)、
 広島市現代美術館「被曝 70 周年 ヒロシマを見つめる三部作 第一部」(9 月 27 日まで)、
 富山県立近代美術館「戦後 70 年 無言館展 画布に遺した青春」(9 月 3 日まで) などです。

広島県立美術館では、戦争を大規模化・総力戦化し近代戦争と変容させたナポレオン戦争をとりあげ、ジェリコー《突撃するナポレオン軍の将軍》1810 年頃(写真)を展示しています。他は概ね先の大戦です(京都で先の戦乱というところと応仁の乱だそうですが、ここでは鶴見俊輔によって提案されてきた満州事変から太平洋戦争の配線までの十五年戦争のことです)。

もちろん、戦争被害を描いた「原爆の絵」や過酷な軍隊生活がテーマになった銅版画「初年兵哀歌」の展示もありますが、戦中戦後に絵画表現を追求し続けた作家の展覧会が目につきました。

「画家は、一般的に、絵画の手解きを受けてから少しずつ学習を深め、自己の芸術を探求して、画風を形成・確立し、成就させるとともに、新たな展開を目指して創作を続けて、その生涯を掛けて自己の芸術を完成させます。彼らは、古今東西の多様な芸術・文化を糧として、その画業を積み重ねて生きていますが、それ以上に、彼らが生きている社会と時代の動向に大きな影響を受けています。その中でも『戦争』は、画家の芸術にとって圧倒的な事件として存在します。」(「画家たちと戦争展」図録より)

戦争に直面した時のその作家の年齢や画壇での位置、そして彼の思想信条により、作品はそして作家の人生そのものも大きく変わります。

富士山を描き続けたすでに大家だった横山大観。陸軍省と海軍省の委嘱によって「作戦記録画」(いわゆる戦争画)を描いた藤田嗣治、宮本三郎、藤島武二たち。シュルレアリスム、前衛絵画など自らの画業を否定されながらも独自の表現を追求し続けた福沢一郎、吉原治良、山口薫、北川民次たち。陸軍省情報部から画家への戦争協力の恫喝ともいえる要請を拒否し「ただ一人の男として」大地を踏みしめて立つ「生きてゐる画家」として唯一人反論した松本竣介、シベリア抑留という過酷な体験を作品に結実させるために 10 年の歳月を要した香月泰男。そして死によって画業を中断せざるをえなかった鬨光、それ以外にも絵筆を銃にかえなければならなかった多くの戦没画学生たち。

さて、1949 年に発表された北脇昇の《クオ・ヴァディス》という作品が名古屋市美術館で展示されています。戦前に独自のシュルレアリスム絵画を確立した作家で、1951 年に亡くなっていますから遺言ともいえるべき作品です。

「クオ・ヴァディス」Quo Vadis とは、ラテン語で「何処に行くのか」という意味ですが(以前、私が使っていたフランスの手帳も Quo Vadis でした)、【ヨハネによる福音書】の中で、聖ペテロがキリストに問いかけた言葉です。

ローマ帝国のキリスト教迫害が厳しくなり、ついに聖ペテロもローマ



東京富士美術館蔵



《クオ・ヴァディス》
東京近代美術館蔵

を離れます。彼はアッピア街道の夜明けの中に現れたキリストに驚き、跪いて、『主よ、何処に行かれるのですか』と尋ねます。キリストは『そなたが私の民を見捨てるならば、私がローマに行って、いま一度十字架に架かろう』と答えます。これを聞いた聖ペトロは迷うことなく道を引き返して、ローマで十字架に架けられて殉教します。』

この絵では、粗末な洋服に帽子を被り、右肩には頭陀袋、左脇に本を抱えた一人の男が、遙かなる地平線が広がる荒野を前に佇んでいます。足元には薔薇の咲く道標と大きな蝸牛の殻。道標の右方向には暗雲が垂れこめ豪雨に煙る廢墟、左方向には赤旗を掲げて更新する民衆。さて、この男は問われています「何処へ行くのですか?」。おそらく彼は民衆の側に歩き出すのでしょう。

まさに、敗戦後 70 年の現在、我々は「何処へ行こう」としているのでしょうか。そして、私自身が問われているのです「Quo Vadis」。

カランドリエ 「小さな“グローバル”」

藤枝知子

前回のカランドリエで書いたように、我が家も久しぶりに「家庭内グローバル化」をはかることにしました。



息子と同年のフランス人女子校生が少しの間ウチにホームステイに来たのです。

昨年度他国のホストファミリーになったママ友らに事前に意見を求めながらの事前準備を終え、フランスから東京経由(説明研修)で新大阪駅に着いた「新しい家族」を迎えに行きました。

少し緊張した顔の女の子がホームに降りてきたのを見つけて迎えに行きました。

日本語もフランスでよく勉強してきた、可愛らしい「娘」は、今のところ特にトラブルも無く日本の高校生活を楽しんでいるようです。

ただ、生活激変でどの子も多かれ少なかれ、ホームシックになると聞き及び、出来るだけ興味あるものをこまめに生活に取り入れるようにしました。

「娘」は、もはやサブカルチャーとは呼ばせない日本が誇る一大文化「漫画、アニメ」が大好きなようです。

日本語上達への近道と言えば「映画鑑賞」もあげられるので、世界的にファン多い漫画「進撃の巨人」の日本人俳優による実写版映画を観に連れて行きました。

あらすじは既に知っていたから、狙い通り「娘」は大ウケで観てくれました。

「日本で行きたいところはある？」

と聞いたところ

「京都や東京！」

とのこと。



有名都市観光したいのだと理解しましたが、息子と相談し特色ある観光を考えました。

数週間後に京都へ日帰りで行きました。息子のアイディアを取り入れ「京都国際マンガミュージアム」と市内散策と清水寺の観光です。

京都市の古い小学校の建物がかっこ良くリノベーションした館内には、所狭しと漫画が並べられ、国内にとどまらず世界各国で翻訳されている漫画もあります。

館内には、外国人観光客も多く、展示物の紹介を読んだり、館内の漫画も自由に読むことができます。

紙芝居の音声説明コーナーには、もちろんフランス語での説明もあり、「娘」も耳を傾けていました。

「趣味」と「歴史」のペア観光を、とても楽しんでくれました。

今、この文を読んでくださっている会員の方々に、漫画好きの外国人のお客様をもてなす参考にさせていただけると嬉しいです。

最後に、ホストマザーとして1番願うのは、実子に対するのと同じく、「心身の健康維持」に尽きます。

また、ウチには息子しかいなかったので「娘」のママとして女の子を迎える準備に少々手間取りました。

でも家に「娘」がいると、華やぐこと！

「家族増えたな～」と実感することは何かと多いですが、そこに国籍の違いはあまり感じません。

もうしばらくホストファミリーとしての我が家ですが、お互い無理なく楽しく過ごせたら、と願っています。

